

# 第1章 調査概要

## 報告書のみかた

- (1) 比率は全て、各設問の不明・無回答を含む集計対象者数(付問で設問該当対象者)に対する百分比(%)を表している。1人の対象者に2つ以上の回答を求める設問では、百分比(%)の合計は、100.0%を超える。
- (2) 百分比(%)は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示した。四捨五入の結果、各回答の百分比(%)の合計は100.0%に一致しない場合がある。
- (3) 図表中の「N」とは集計対象者総数(あるいは、分類別の該当対象者数)を示し、比率は「N」を100.0%として算出した。
- (4) 図表中の「-」は回答がなかった項目である。
- (5) 回答者数は、各地域の抽出率の差を調整するため、回収数にウエイトを加重し規正した。これは標本数の配分にあたり、湖西地域は他の6地域(大津、湖南、甲賀、東近江、湖東、湖北)の2倍のウエイトを加重して抽出したためである。

## 1．調査目的

県政全体に関する満足度と県政の当面する主要課題等をテーマに選び、県民の意識・意向を調査し、今後の県政をすすめるうえでの基礎資料とする。

## 2．調査期間

平成21年6月5日～平成21年6月27日

## 3．調査設計

調査地域	滋賀県内全域
調査対象	県内在住の満20歳以上の男女個人(外国人を含む)
標本数	3,000人
抽出台帳	選挙人名簿および外国人登録原票
抽出方法	層化二段無作為抽出法
調査票	日本語および翻訳調査票

## 4．調査方法

郵送式・無記名方式

## 5．調査機関

(株)地域未来研究所

## 6．調査項目

- (1) 県政全体に関する満足度について
- (2) 県の広報・広聴活動について
- (3) 健康、医療、福祉について
- (4) 食料・農業・農村政策のあり方について
- (5) 琵琶湖の総合保全および森林づくりについて
- (6) 地方分権について

## 7 . 標本構成

### (1)層化

#### a ) 地域別

大 津	大津市
湖 南	草津市、守山市、栗東市、野洲市
甲 賀	湖南市、甲賀市
東近江	近江八幡市、東近江市、安土町、日野町、竜王町
湖 東	彦根市、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町
湖 北	長浜市、米原市、虎姫町、湖北町、高月町、木之本町、余呉町、西浅井町
湖 西	高島市

#### b ) 市郡別

市 部	大津市、草津市、守山市、栗東市、野洲市、湖南市、甲賀市、近江八幡市、東近江市、彦根市、長浜市、米原市、高島市
郡 部	安土町、日野町、竜王町、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町、虎姫町、湖北町、高月町、木之本町、余呉町、西浅井町

(2) 標本数の配分

各地域、市郡規模の層における 20 歳以上の人口を基に抽出ウェイト[(3)調査結果の集計表示方法を参照]により、3,000 人の標本数を比例配分した。

		市部	郡部	計
大 津	推定母集団	263,733	-	263,733
	標 本 数	683	-	683
	地 点 数	45	-	45
湖 南	推定母集団	240,497	-	240,497
	標 本 数	624	-	624
	地 点 数	41	-	41
甲 賀	推定母集団	119,352	-	119,352
	標 本 数	309	-	309
	地 点 数	20	-	20
東近江	推定母集団	149,093	39,411	188,504
	標 本 数	387	102	489
	地 点 数	26	7	33
湖 東	推定母集団	87,637	34,925	122,562
	標 本 数	227	90	317
	地 点 数	15	6	21
湖 北	推定母集団	99,877	34,415	134,292
	標 本 数	259	88	347
	地 点 数	17	6	23
湖 西	推定母集団	44,576	-	44,576
	標 本 数	231	-	231
	地 点 数	15	-	15
合 計	推定母集団	1,004,765	108,751	1,113,516
	標 本 数	2,720	280	3,000
	地 点 数	179	19	198

(ア)抽出地点は、平成 17 年度国勢調査時に設定された調査区を使用した。

(イ)推定母集団は、以下のように算出した。

日本国籍のものは、平成 20 年 3 月 31 日現在の住民基本台帳登録者数をベースに算出した。

外国籍のものは、平成 20 年 12 月 31 日現在の外国人登録者数をベースに、「平成 20 年版在留外国人統計」(平成 19 年 12 月末現在)の成人比率で補正し、算出した。

### (3) 調査結果の集計表示方法

各地域とも統計的な信頼度が確保できるように、以下の通りの標本数と抽出ウエイトとしている。

地域別の抽出数が異なるため、有効回収数に集計ウエイトを加重し補正した。調査結果は、この「規正標本数」を基数として集計を行なった。

地 域	抽 出 ウエイト	標 本 数	有効回収数	集 計 ウエイト	規正標本数
大 津	1 / 2	683	434	2	868
湖 南	1 / 2	624	368	2	736
甲 賀	1 / 2	309	189	2	378
東近江	1 / 2	489	299	2	598
湖 東	1 / 2	317	192	2	384
湖 北	1 / 2	347	202	2	404
湖 西	1	231	140	1	140
不 明	-	-	1	-	1
合 計	-	3,000	1,825	-	3,509

## 8 . 調査票の回収結果

有効回収数は、1,825 件となり、有効回収率は全体で 60.8%となった。

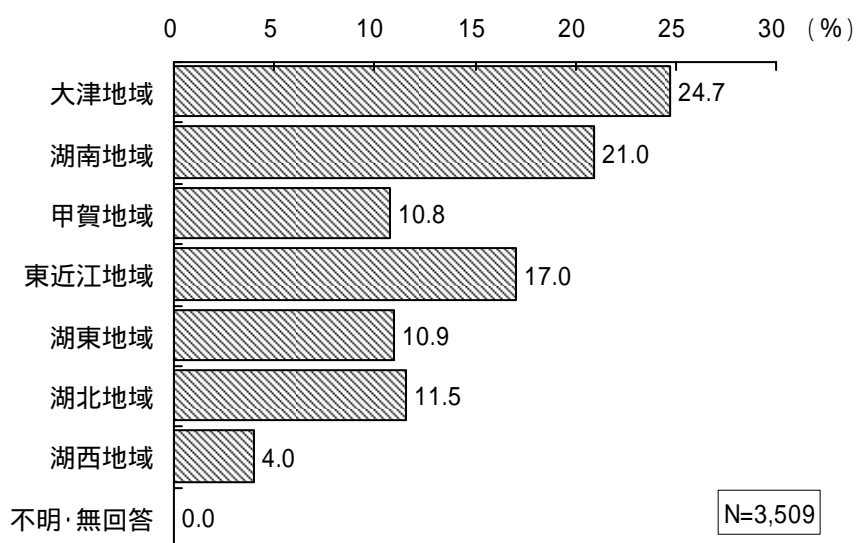
地 域	標 本 数	有 効 回 収 数	有 効 回 収 率
大 津	683	434	63.5%
湖 南	624	368	60.0%
甲 賀	309	189	61.2%
東近江	489	299	61.1%
湖 東	317	192	60.6%
湖 北	347	202	58.2%
湖 西	231	140	60.6%
不 明	-	1	-
合 計	3,000	1,825	60.8%

## 9 . 回答者の属性

ここでは回答者の属性につき、地域別、市郡別、性別、年代別、職業別、勤務地（通学地）別、居住歴別にみた結果を示す。

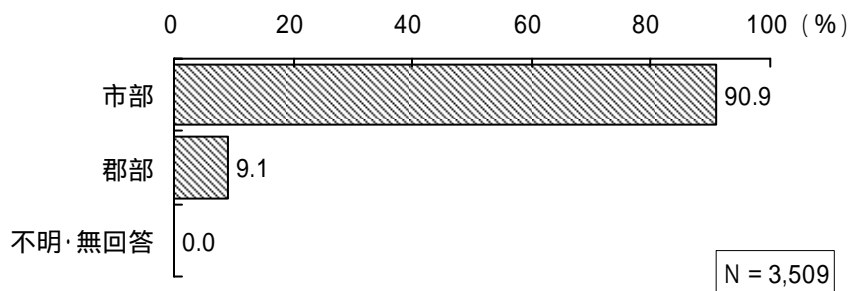
### （ 1 ）地域別

居住地域は「大津地域」が24.7%と最も高い。次いで「湖南地域」が21.0%、「東近江地域」が17.0%で続いている。



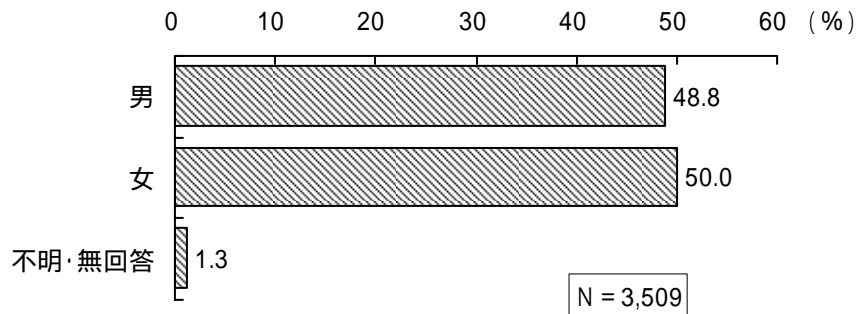
### （ 2 ）市郡別

居住地域を市郡別で見ると、「市部」の割合が高く、90.9%を占めている。一方、郡部は9.1%となっている。



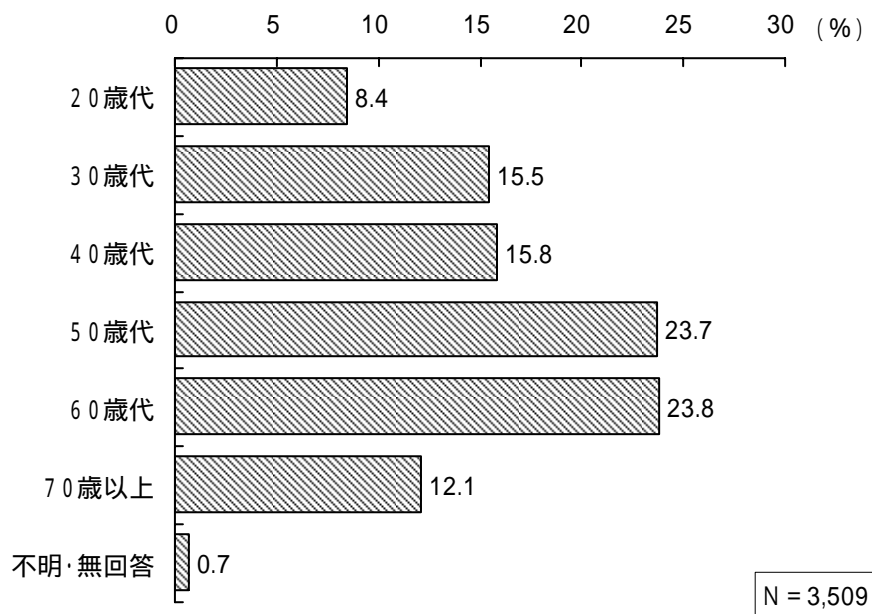
### (3) 性別

回答者の性別は、「女性」が50.0%となっており、「男性」(48.8%)よりも高くなっている。



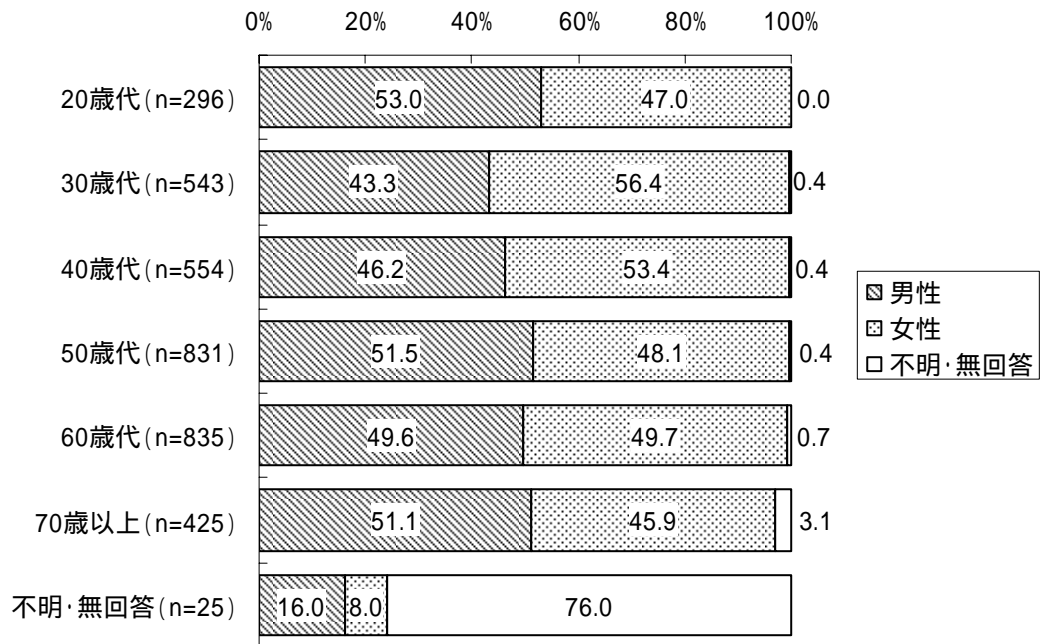
### (4) 年代別

年齢は、「60歳代」(23.8%)、「50歳代」(23.7%)が高く、「40歳代」(15.8%)、「30歳代」(15.5%)が続いている。



( 5 ) 性・年代別

性・年代別の構成をみると、「30歳代」、「40歳代」、「60歳代」では男性に比べて女性の割合が高くなっている。このうち「30歳代」では女性が56.4%と男性を13.1ポイント上回っている。一方、「20歳代」、「50歳代」、「70歳以上」では、男性の割合のほうが高くなっている。

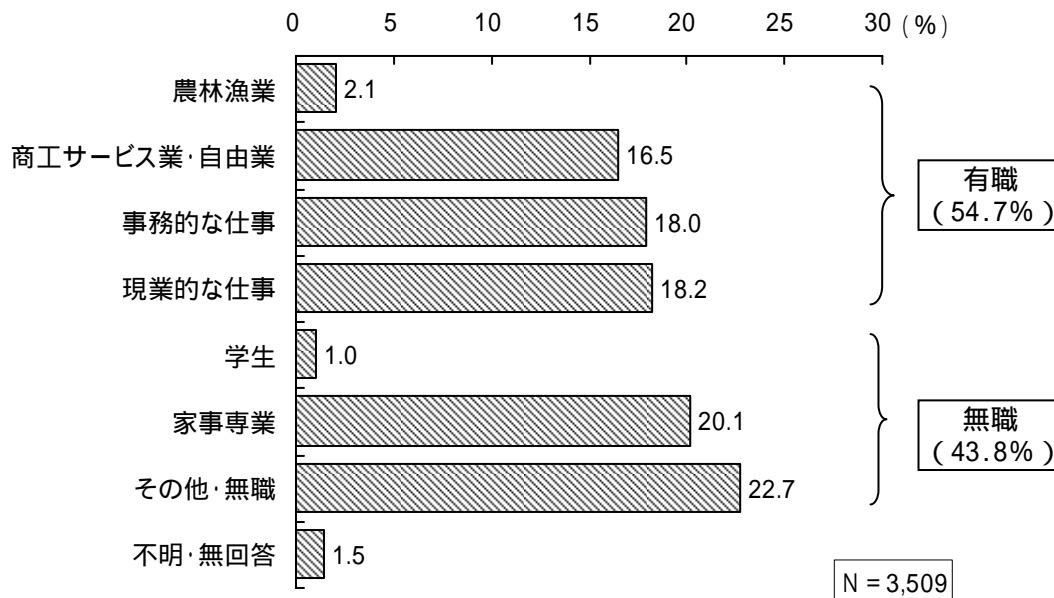


	規 正 標本数 ( 総数 )	男 性 ( % )	女 性 ( % )	不明・ 無回答 ( % )
総 数	3,509	48.8	50.0	1.3
20 歳 代	296	53.0	47.0	0.0
30 歳 代	543	43.3	56.4	0.4
40 歳 代	554	46.2	53.4	0.4
50 歳 代	831	51.5	48.1	0.4
60 歳 代	835	49.6	49.7	0.7
70 歳 以上	425	51.1	45.9	3.1
不明・無回答	25	16.0	8.0	76.0



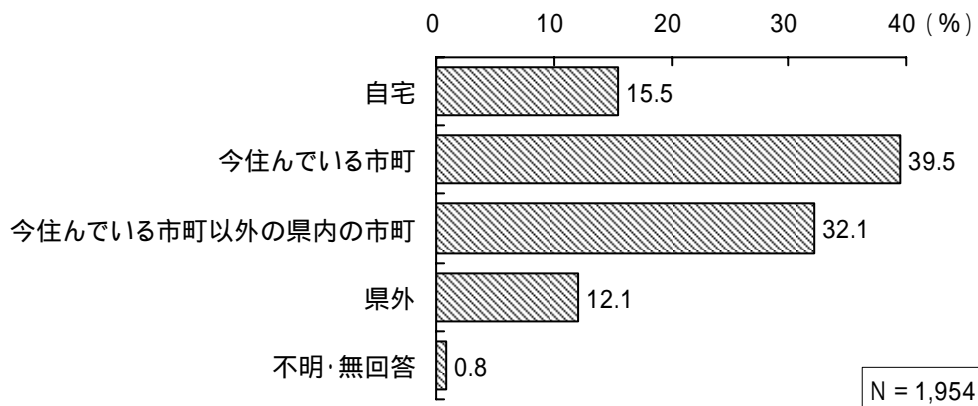
( 6 ) 職業別

職業別では、有職は 54.7%となっており、そのうち「現業的な仕事」(18.2%)が最も高く、次いで「事務的な仕事」(18.0%)が高い。これに対して無職は 43.8%であり、そのうち「その他・無職」(22.7%)が最も高く、「家事専業」(20.1%)が続いている。



( 7 ) 勤務地 ( 通学地 )

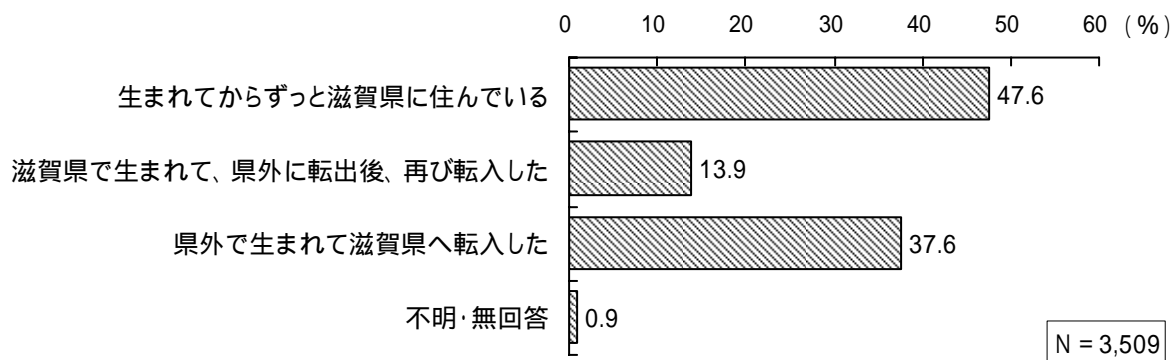
勤務地 ( 通学地 ) は、「今住んでいる市町」が最も高く 39.5%となっている。次いで、「今住んでいる市町以外の県内の市町」(32.1%)が高い。



### ( 8 ) 居住歴別

居住歴は、「生まれてからずっと滋賀県に住んでいる」が47.6%で最も高く、次いで「県外で生まれて滋賀県へ転入した」(37.6%)が高い。

また、「滋賀県で生まれて、県外に転出後、再び転入した」という人と「県外で生まれて滋賀県へ転入した」という人の居住年数は、「10年以上」が最も高く73.7%を占めている。



### (転入後の居住年数)

